

会 議 名	令和6年度第1回小金井市立はけの森美術館運営協議会		
事 務 局	市民部 コミュニティ文化課（はけの森美術館）		
開 催 日 時	令和6年5月10日（金）18時30分～20時00分		
開 催 場 所	市立はけの森美術館 多目的講義室		
出 席 委 員	鉄矢悦朗会長 山村仁志委員 原田隆司委員 畑島一代委員 平田勇治委員 中川法子委員		
欠 席 委 員			
事 務 局 員	コミュニティ文化課文化推進係 津端 佐原 同 はけの森美術館学芸員 中村、河上、 同 はけの森美術館学芸顧問 河合		
傍 聴 の 可 否	可		
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由		傍聴者数	1人
会 議 次 第	(1) 展覧会「中村研一の往還ー都市、郊外、道の向こうー」の観覧 (2) 委嘱状の交付 (3) 委員自己紹介 (4) 事務局紹介 (5) 正副会長互選 (6) 運営協議会の運営等について (7) 令和6年度の事業予定と予算について (8) その他		
会 議 結 果	別紙のとおり		
会 議 要 旨	別紙のとおり		
提 出 資 料	資料1 教育事業報告 資料2 日程表		

【中川委員】 それでは、皆さん、まだ明るいのでこんばんはという感じではないのですけれども、お集まりいただきありがとうございます。

それでは、ただいまより令和6年度第1回小金井市立はけの森美術館運営協議会を開会いたします。

次第の紙がお手元にあると思うんですけれども、皆様、下の展示については御覧いただけたかと思いますので、次の議題に進ませていただきます。

2番の委嘱状の交付についてでございます。

皆様のお手元に委嘱状を配付しておりますので、御確認をお願いいたします。本来であれば、市長から皆様に直接お渡しするものであるんですけれども、他の公務のためにこちらには来られないので、机上に委託状を配付させていただきたいと思います。市長から皆様によろしくということでございます。

今回、令和6年度の第1回ということでして、新しく委員になりました畑島さんと平田さんがいらっしゃいますので、先に皆様、簡単に自己紹介をしていただけたらと考えております。

では、まず、鉄矢先生から、ぐるっと回ってもよろしいですか。

【鉄矢委員】 東京学芸大学でデザインを教えております鉄矢と申します。名字が鉄矢です。

「遊びが最高の学び」というキーワードをもって、今、大学でもデザインということを通じて、子供たちが遊びながら学ぶようにというか、学ぶことを遊ぶようにしてほしいなというような感じでいつも動いております。どうぞよろしくお願いいたします。

【中川委員】 ありがとうございます。

【山村委員】 山村といいます。

3月までは東京都美術館の学芸課長だったんですが、4月からは、定年退職で、東京都美術館の学芸員として嘱託で、1年ごとの契約ということで勤務しております。

もうこの協議会も長年、携わせていただいているんですが、もともとのきっかけは府中市美術館というところで長く23年間働いておりまして、それでこちらにということで、もう亡くなられたのですけれども、顧問だった薩摩さんから御紹介を受けて、すごく愛着を持ってやらせていただいております。

今年は、東京都美術館は11月に企画展で「ノスタルジア」というテーマで展覧会をやる、その準備を主にやるんですけれども、今日の展覧会を拝見して、いろいろと中村研一、

まさに近代を歩んできた、日本近代の歴史とともに歩んできたんだなというふうに改めて思いましたので、非常に参考になりました。よろしくお願いいたします。

【中川委員】 ありがとうございます。では、平田さん、お願いいたします。

【平田委員】 教育委員会の指導室の指導室長の平田でございます。

前任の加藤が異動しまして、平田、私が4月1日から着任いたしました。

小金井市は、以前、ちょうど4年前、コロナの前までは教育委員会で指導主事と教科指導主事で9年間いたので、それで、この地理的なこととか、その当時のはけの森美術館の学芸員の方と一緒に何か事業やっていたとか、そういう記憶はちょっと残っているんですけども、4年たったら、大分今、いろいろな取組が違う、新しい取組が始まっているというのを伺いして、すばらしいことだと思っております。

また、分からないことがいっぱいありますので、いろいろ教えていただけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【中川委員】 お願いいたします。

すみません、申し遅れましたが、コミュニティ文化課兼はけの森美術館長の中川と申します。

私も昨年、コミュニティ文化課に着任いたしまして、美術館のことについても昨年から皆さんと一緒に学ばせていただいているところです。

この美術館、市に寄贈されてからしばらくたちまして、設備がちょっと苦しくなってきたりとかしていたんですけども、今年はちょっといいことがありまして、予算が取れたりとか、だんだんよくしていけばというふうには考えているところです。よろしくお願いいたします。

では、お願いいたします。

【畑島委員】 畑島一代と申します。よろしくお願いいたします。

ふだんは小金井市の介護支援事業所でケアマネジャーをしています。大学では製織を専攻していました。でも今、全く違う仕事をしているんですけども、何かアートと福祉の橋渡しができればなというのがライフワークというか、思っておりまして、今回、応募させていただきました。

どうぞいろいろ御指導いただければと思います。よろしくお願いいたします。

【原田委員】 原田と申します。

公募委員、今度で3期目ですので、あと2年間、よろしくお願いいたします。

会社員を定年で退職してから既に10年たちまして、この10年間で小金井市のことを初めて知って大好きになって、この美術館も大ファンになったという市民の立場で、これからこの美術館と、それから、学芸員の皆さんの応援団としていろいろ頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

【中川委員】 ありがとうございます。

【河合学芸顧問】 私はこの運営協議会の委員ではございません。なんですけれども、学芸顧問となっていますけれども、実はこの美術館がつくられる、市に移ってから、先ほど名前も出しましたが、東京藝術大学の大学美術館の薩摩さんがいろいろと御努力して、そして、アドバイザーみたいにやっていたんです。

その過程の中で私も、2年でもいいから付き合っよと言われて、ちょっと私のほうが先輩方だったんで、では、2年って言ったらば、それで終わらせてくれなくて、作品の収集とか何かに関わってずっとまいりました。

非常に残念なことに薩摩先生が亡くなられて、その間、少しの間ブランクがあったんですけれども、話をいただきまして、薩摩から引き継いだと思えばしょうがないかというとなんなんですけれども、非常に学芸の人たちも熱心な人だったので、何かの形でフォローできたりアドバイスができればと思ひまして、お引受けして今年で3年目です。

本当に運営協議会の皆さんにはいろいろと深く内容にまで関わってくださったりして、びっくりするぐらい濃い論議、討議といえますかがあるので、よそだともっとさらっと行っちゃうよなと思うぐらいなんですけれども、そこら辺だけやはりこの小規模の美術館ゆえに細かいところまで皆さんが気を遣ってくださっているのが分かりまして、非常に感謝に堪えないわけなんですけれども、私は私自身で、ある意味では薩摩から引き継いだと言っちゃ大げさなんですけれども、やはりこの美術館、それから、市の美術館として、それから、いわゆる現代に生きる人たちの中でどう関わっていくか。当然教育普及活動等の中で大局的に見ていきたいと思ひて、学芸、それから、小金井市の方たちにも、こちらもある程度意見も言わせていただいているという状況でございます。よろしくお願いいたします。

【中川委員】 ありがとうございます。

次に、事務局、コミュニティ文化課と美術館の学芸員のほうで人事異動がありましたので、御報告いたします。

前回の運営協議会でも紹介いたしましたが、学芸員の西尾が令和6年3月末で退職いた

しましたので、御報告いたします。

残念ながら、後任がまだ決まっていないので、今、ちょっと人数が少ない状態でございます。後任については、現在募集中でございます。

それでは、続きまして、5番の正副会長、委員長の互選に移りたいと思います。

会長、副会長の選出につきましては、小金井市立はけの森美術館条例の施行規則第6条第1項の規定により、委員の互選によることとなっております。

会長について、どなたか立候補または御推薦がありましたらお願いいたします。

【山村委員】 はい。推薦で、鉄矢委員に引き続きお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

【中川委員】 ありがとうございます。

ただいま山村委員より、鉄矢委員を会長にとのお話がございました。

鉄矢委員に会長をお願いすることに御異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【中川委員】 ありがとうございます。

それでは、鉄矢委員を会長とすることと決定いたします。

鉄矢会長から一言御挨拶をお願いできますでしょうか。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。

推薦していただいてありがとうございます。

やりたいと思っていたので。やりたいと思う人がやらないと、嫌がってやるような仕事じゃないと思うので、やりたいと思っても、私、実は薩摩先生の教え子でして、薩摩先生が芸大に着任したときの教え子で、そのときに美術館はどうあるべきかと言って、どれだけ自由に学芸員が踊れるかというぐらいの話をされて、レジスターとして使うんじゃないというふうにすごく言われていましたので、そんな思いもあって、河合顧問からのお話を聞きながら、ああ、そうだな、美術館は変わっていけるという、それもやはり言っていましたし、ぜひ皆さんと一緒にいい美術館をつくりたいと思います。よろしくお願いします。

【中川委員】 ありがとうございます。

それでは、会長が選任されましたので、今後の進行については会長にお譲りしたいと思います。それでは、会長、よろしくお願いいたします。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。

では、議題6。

【中川委員】 副委員長です。

【鉄矢会長】 それでは、引き続き、副会長の選出を行いたいと思います。

どなたか立候補または御推薦ありましたらお願いいたします。

【中川委員】 よろしいでしょうか。

同じく学識経験者枠で委員となられていらっしゃる山村委員を副会長に推薦いたします。

【鉄矢会長】 ただいま中川委員より、山村委員を副会長にとのお話がございました。

山村委員に副会長をお願いすることに御異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【鉄矢会長】 御異議ないようですので、山村委員を副会長ということに決定いたします。

山村副会長から一言御挨拶をお願いいたします。

【山村副会長】 ありがとうございます。

引き続き、鉄矢会長の補佐ということで、よろしくお願いします。

【鉄矢会長】 では、議題6、運営協議会の運営について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】 では、会議の運営について御説明させていただきます。

その前に本日の資料について御説明させていただきます。

まず、次第、ホチキスどめの資料が1部、資料2横書きの表のものが1部、あと、資料3ということで、アンケートが入りました。ごめんなさい、資料3がかぶってしまったんですけれども、横書きで今年度の予算についてのものが、資料3と書いてありますが、4になります。あと、制限付き一般競争入札というちょっと難しそうなタイトルのものが1部、あと、昨年度、皆さんにつくっていただいた提言の完成版が1部ということで、今日は資料が多いんですけれども、以上になりますが、皆さんのお机でこれが足りないというものがあれば、手を挙げていただければと思います。

【鉄矢会長】 すみません、もう1回繰り返します。

資料1が。

【事務局】 資料1がホチキスどめのものが1枚。

【鉄矢会長】 ホチキスどめの展覧会・教育普及の報告っていうやつですね。資料2が横書きの表のやつ。資料3がアンケートっていうやつですね。横書きの資料3を資料4に

する。その後の入札のものが資料5。在り方については6でいいですか。

【事務局】 はい。

【鉄矢会長】 以上、資料、お手元にございますでしょうか。

【事務局】 ありがとうございます。

続きまして、本会議の運営について御説明させていただきます。

会議は年4回の開催を予定しておりまして、内容については、事業の報告と今後の予定の大きく2点についての御報告になります。事業の報告は、基本的には前回の会議の開催以降に実施した展覧会やワークショップなどについて報告をさせていただくもので、今後の予定につきましては、これから開催される事業等について事前に説明をさせていただくものになります。なので、ここの場でお話をしていても多少変わることがございます。

それぞれ担当の学芸員を中心に説明をさせていただいた上で、委員の皆様から御意見をいただくという形になります。

最後に、会議録と会議の傍聴についてですが、会議録は発言者名を明記した全文記録となりますので、今回、このとおり傍聴も認めております。会議録は皆様に校正をいただいた後にホームページ等で公開させていただく予定になります。

事務局からは以上になります。

【鉄矢会長】 この会議の進行などについて事務局から説明がありました。

お話にあったように進めることとなります。よろしくお願いいたします。

それでは、6番が終わったので、7番ですね。令和6年度事業予定と予算についてということで、ここからがいつものような、いつもというか、運営協議会の基本の話になります。よろしくお願いいたします。

【事務局】 まず、事業予定のほうを学芸員さんから。

【中村学芸員】 分かりました。

では、資料1のほうから順番に説明させていただきます。学芸員の中村からまず、報告させていただきます。

最初に既に開催中の展覧会についての報告、それから、その後に今後の事業予定という順番で報告をさせていただきますので、今回開催中の事業に関しましては、ここに確定した情報が載ってございますけれども、先ほど事務局から説明がありましたように、これからの事業に関しましてはまだ調整中のことも多く、不確定な情報という形で、あくまでこの会議での報告のために言えることというような形で、仮の情報が載っているところもご

ございます。まだ調整が済んでいないということもございますので、こちらの資料に関しましては、そういったところも考慮していただきまして、内部の資料としまして、この委員会の外での公開ということはないようにしていただければと思います。

まず、開催中の展覧会ですけれども、今回「中村研一の往還 都市、郊外、道の向こう一」と題しまして、2024年3月24日から所蔵作品展が開催中でございます。こちらが5月12日、今週末までの会期となっております、こちらの5月10日までの入館者状況としまして、本日までの入館者、こちらに記載しておりますように、924人となっております。

今回のこの展示に関しましては、概要に示しましたとおり、中村研一の生涯における行き来というものに注目した展示になっておりまして、彼がまなざした風景や出来事などを作品から概観するということをテーマにした収蔵作品展になっております。

語感から行き来につきましては「往還」というふうに表現しておりますけれども、この「往還」というのには道という意味もございますので、特定の道を行ったり来たりしたということではなくて、あくまで人生の中で象徴的なイメージとして、道のようにいろいろな場所に行ったりしたということをテーマとしているということを示すために、副題のほうで「都市、郊外、道の向こう」という副題をつけております。

所蔵作品展ですので、当館の所蔵作品が並んでおりますけれども、こちらの展示では、寄贈作品で2020年度に寄贈されたんですけれども、作品の状態が非常に劣化が進んでおりまして、今までずっと展示ができない状態だった「福井一二氏の肖像」という作品が修復を完了いたしまして、展示ができるようになったということで、そちらの初公開というものも併せて行っております。

関連企画に関しましては、こちらに示しましたように、まず、1つ目として、プレ企画として、3月23日、会期が始まる前日にギャラリーコンサートが行われております。こちらのギャラリーコンサートですけれども、非常に人気があつて、こちらは、40名の定員のところに、申込みとしては多数、こちらの正確な数のほうは私のほうでも把握していないんですけれども、倍以上の申込みがあつたということで抽せんを実施しまして、40名定員満席でコンサートが行われました。

こちらのギャラリーコンサートですけれども、展示室の中で音楽を楽しんでいただくだけではなくて、展示の後にプチギャラリートークもつけまして、展示の内容にも興味を持っていただくというような、そういった趣旨で行っております。

それと、3月28日に、こちらは主に子供向けとして、読み聞かせとワークショップ「とびらのむこうはどんなせかい？」というワークショップが行われています。

こちらは、こごうちぶんこ ことりのへやという、そこに額がございますけれども、こごうちぶんこという、市内で長く子供向けの文庫を活動されてきた方たちに講師をお願いしまして、こちらの展示のイメージに合わせた絵本を選んでもらって読み聞かせをすることと、それから、「とびらのむこうはどんなせかい？」という言葉からイメージを膨らませて、自分でオリジナルのカードを作ってもらうということをワークショップとして行うという、そういう複合的なイベントになっております。

こちらのアンケートの結果が、資料の3についておりますアンケートになっておりまして、御覧いただければと思いますけれども、30名、13組の参加がございました。こちらは小さいお子さんに向けて、できるだけ気軽に参加してほしいということで、事前申込みなどは必要としなくて、その日に来られそうだったら、ふらっと来てねという、そういう形で行ったんですけれども、15組ぐらいと想定しておりましたので、ほぼ満員の状態になったという形になります。

アンケートの結果は、こちらは回収の件数8件となっておりますけれども、参加したのはほとんど大部分が未就学児を中心としたお子さんですので、アンケートを書きくださったのは保護者の方ということになっております。保護者の方目線からの感想などをいただいております。おおむね、小さい子供がなかなか美術館に来るという体験をしたことがなかった中で参加できたということで、新鮮な思いを持たれたという方が多かったようです。

一番下の作品「明治神宮」の額のカビが気になりましたという意見だけ。これは作品のことですので、補足させていただければと思いますけれども、このような指摘がございまして、こちらのほうでも「明治神宮」の額のほうを確認しましたところ、確かに額の下の方に白い付着物があつたんです。ただ、一見したところ、カビなのかほこりなのかというところが判別に悩むような感じでしたので、一旦、アルコールをつけたウェットティッシュのようなもの、ウエスでふき取りを行いまして、その後、経過を観察しているところなんですけれども、今のところ、この3月28日以降のところでまた白いものが復活してくるというようなところは、様子としては見られない状態でございます。

「明治神宮」というこの作品に関しましては、2017年度に修復を実施しておりまして、そのときに額なども全体的にクリーニングを行っておりますので、例えば全体的に作

品に影響を及ぼすようなカビというものが、付着している程度が深刻であるというような可能性というのはちょっと考えづらいんですけども、ただ、このような指摘もありましたので、この会期中、経過観察を続けまして、展覧会が終わってからも随時確認をしているかと思っています。

そういった形で、こちらのワークショップのほうは、こちらの多目的講義室を使って行われました。

ギャラリートークに関しましては、4月6日に1回目が行われまして、参加人数7名の方に参加いただきました。2回目がちょうど明日行われる予定です。ギャラリートークのほうは、1階の展示室を中心に行う予定でして、今回の展示のテーマに合わせて、往還というイトをつけたことですか、それから、ポスターのほうに採用している作品のことについてなどを解説する予定でございます。

3番目のカタログフェアと無料開館日に関してですけれども、こちらは、イベントとして行っているというよりかは、会期に併せてずっとやっているものになるんですけども、まず、1つ目のカタログフェアというのは、会期中、既刊リーフレットに関しては在庫があるものを全種購入可能として、全部、受付の前に並べているというものです。購入してくれた人には、どれでも1冊、1つおまけつきとしております。

これは、どちらかというと、コロナの期間中、ショップの販売がかなり制限されておまして、既存のカタログ類がほとんど動かなくなってしまうと、せっかく作ったものがお客様の目に触れる機会というものが非常に減ってしまったということがありますので、こういったものを作っているということを改めて来館者の皆様に知っていただければということで企画しております。

2番目の中村研一の誕生日を記念した無料観覧日に関しましては、当館が開館以降ずっと続けてきているもので、この時期に行われる展示の中で5月14日に一番近い日曜日を無料開館日にするという形でやってきております。今回の会期が5月12日までですので、今回は最終日の5月12日が無料開館日になる予定でございます。

あと、こちらの資料には載せていないんですけども、皆様の机のほうにポストカードを1枚ずつ置いてございます。こちらは今回の展示のノベルティーといいますか、来館者の方という形で作成したポストカードになりまして、今回のチラシのデザインをしてくださった学芸大の正木先生にポストカードのほうもデザインしていただきました。こちらは入館者特典として1,000枚作りまして、配り終え次第終了という形にしているんで

すけれども、今回の展示の入館者がちょうど今日までで924人なんです。あとちょっとで終わりです。無料開館日にもしかすると途中で終わるかな、どうかなという感じですが、けれども、今、そういった形でお配りしております。1,000枚で終わりにする予定です。

開催しております展覧会に関しましては、報告以上となります。

続きまして、2の今後の展覧会・教育普及事業等というところに報告を続けさせていただきます。

【河上学芸員】 続きまして、2番の今後の展覧会・教育普及事業等につきましては、学芸員の河上より予定のほうをお話しさせていただきたいと思います。

1番、夏季から秋季の修繕休館に伴う展覧会別立イベント・ワークショップとございますけれども、先ほどコミュニティ文化課課長の中川のほうから少し触れさせていただきましたとおり、ここにあります修繕休館という、この修繕の部分なんですけれども、今年度、ここ数年、この美術館の展示室及び収蔵庫、全体の空調の調子がよいという状態ではなくて、そのところの予算のほうをずっと申請、要求をしていたところ、今年度、その修繕の予算がつきまして、今年度にそれが行われる予定になっております。

その修繕に伴いまして、その間が展覧会等、展示室を大がかりに使うイベントというのができなくなりますので、完全にこの美術館が休館状態に数か月間になってしまうというところで、では、その代わりに何もしていないということではなく、イベント等を美術館主催でやるというところで、今、調整をしているところでございます。

まだ実は全て調整中というところで、具体的なイベントの内容等をここで御報告は現段階ではできないんですけれども、どのようなものを考えているかというところで、この1番から4番のところを挙げさせていただいております。

まず、1番というのが、子ども向けのアニメーション制作ワークショップというところで、こちらはアニメーション、手を動かすお子さん向け、ないしはお子さん中心にどなたでも参加できるような、そういった創作ワークショップを1つやってみようじゃないかというところで調整をしております。

2番目に関しましては、大人向け、1番と対照的に、本当に大人向けのイベントを1つ予定、これも今、調整中、いろいろなところにお話を、相談をしているような段階になっております。

3番に関しましては、この裏の中村研一がもともと住んでいたという邸宅と、あと、隣にある茶室「花侵庵」が国登録有形文化財として2019年に登録をしまして、その5

周年というところで、その記念のイベントをこの別立イベント・ワークショップのところで開催できればというふうに考えております。

4番の附属喫茶棟「はけの森コマグラ」との連携イベントというのは、皆様、もしかしたら御存じかも知れないんですけども、今回の中村研一の往還の会期と同時に、実はずっと閉まっていた隣の併設している喫茶棟、カフェのほうが新たな事業者を迎えて再オープンいたしました。記念として美術館と何かコラボレーションしてイベントができないかというところで、今、コマグラさんとも少し相談ができないかというところで調整をしているところです。

ですので、夏と秋、次の展覧会のお話をこの後させていただくんですけども、そのスタートが11月ぐらいというところでスタートを考えておりますので、本当にまるっと夏と秋と空いて、全く活動がないというふうな状況は避けるべく、できる限りは月に1回から2回のイベント・ワークショップの開催に向けて、今、調整をしているような段階でございます。

1番の夏季から秋季の修繕休館に伴うイベント・ワークショップについては、以上になります。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。

【中村学芸員】 では、続きまして、これから開催する展覧会に関しまして、こちらのほうは学芸員の中村から報告させていただきます。

展覧会のほうなんですけれども、こちらの情報もまだ仮の調整中の部分が多くて恐縮なんですけれども、11月から1月ぐらいという、秋にかけての時期です。先ほど河上のほうからも説明がありましたように、空調工事が7月から9月期に入る予定ですので、こちらの工事が完了して、空調が支障なく動いているというのを確認できた時期というところに想定しまして、富永親徳展という展示を現在、計画中でございます。

こちらの富永親徳という人物に関しましては、恐らく名前を言ってどういう画家かというのを頭に浮かべられる人というのはほぼゼロに近いかと思うんですけども、中村研一とはほぼ同世代、同じ時代を生きた洋画家でして、東京美術学校で学んで洋画家になったというところでは、非常に中村研一と近い生き方をしたんですけども、たどり着いたところは全く違うというか、だけれども、同じ小金井に住んでいたという、小金井のこの辺りに住んでいたという、そういう画家の展示を行いたいと考えております。名前がほとんど知られていない画家ですので、当然のことながら初めての展示ということになります。

こうしたほとんど名前が知られていない画家の展示を何で計画していくのかということに関しましては、概要に示しましたとおり、当館にこの富永親徳の作品資料計100点の寄贈が行われる見込みで現在、手続が進んでいるというところがございます。

こちらの画家は、ほとんど知られていない画家ではあるけれども、そうした中村研一の同時期の近代洋画家としては、見るべきところというのは非常に多い画家だと思いますので、そういった部分の、一体どういう画家なのかということも含めて、皆様に一度、まず、こういう画家だよというところのイメージのフレームみたいなものを提示できるような、そういう展示を目指して現在、調整を行っております。

この富永親徳に関しましては、運営協議会で以前、実はちらっと名前を出したことがございまして、2023年度にポーラ美術財団のほうで、この富永親徳に関する研究の助成を当館で1年度間受けていたんです。このポーラの助成金によって、富永親徳というこの人物の人生というのが大体どんな感じかということが調査、1年間通じてできまして、それだけでなく、この寄贈に係るところでたくさん確認された彼の作品というものの一定のクリーニングと薫蒸というものができたということもありますので、そうした研究課題の成果展示としての側面というものもこの展示の中に盛り込んでいければというふうに考えております。

そうした形で、ある意味、ほとんど、名前だけ聞いても具体的なイメージができない画家ということですので、やはり時代ですとか、いろいろな切り口からそうした画家に対するイメージというものを描いていけるような関連企画というのを現在、いろいろ考えておりまして、調整中なんですけれども、ここは少し先行してお話をする形になってしまうんですけれども、関連企画に関しましては、現在、会期も含めてなんですけれども、日程調整というところでも、少し調整のいろいろな工夫をしなければいけないところでして、下の鑑賞教室というところを御覧いただければと思うんですけれども、今回、今年度は展覧会が企画展1本で、通常ならば1年の間に2本企画展が行われているところを、1つ減るんです。

この鑑賞教室というのは、市内の小学校の全9校が美術館に来て展示を鑑賞するというものなんですけれども、そうすると、今までは最初の年度の初めの所蔵作品展と2本の企画展のいずれかに9校が来るという形になっていたんですけれども、今年度、9校全部がこの富永親徳展の会期に集中するということになりました。

本当は所蔵作品展に南小学校が来る予定だったんですけれども、諸事情がありまして、

南小学校の鑑賞教室もこの中村研一の往還期間中に開催できなくて、秋のほうの展示に回ることになったんです。

見ていただくと分かるように、11月から12月にかけて、毎週のように今、小学生たちがやってくるという状態になっておりまして、この鑑賞教室のスケジュールの中にイベントをどういうふうに配置していくかというところで、日程の調整というところも今、いろいろ検討しておるところでございます。

いずれにしても、この富永親徳という人物に関しまして、ほとんど名前の知られていない人物であるということと、それから、当館としては、中村研一以外の画家のまとまった寄贈を受けることになるということで、いろいろ初めてのこともありますので、そういったところで調整をして、秋までに何とか形にしていきたいというふうに思っているところです。

展覧会に関しましては、以上となります。

【鉄矢会長】 ありがとうございました。

予算についてやるんでしたっけ。

【事務局】 予算は簡単に。

【鉄矢会長】 では、ここまでで1回切って。

では、説明がありましたので、何か質問、意見等ありましたら、よろしくお願いします。

【原田委員】 質問です。

中村研一の往還、924人というのは、これまでの所蔵作品展の数字と比べてどうなんでしょうか。多いですか。

【中村学芸員】 印象としましては、コロナ禍前の基準に少し戻ってきたかなという印象でございます。

やはりコロナの影響が大きかった時期はなかなか1,000人に届かずに終わってしまったりですとか、2020年度などは5月に入る前に展覧会が緊急事態宣言で会期中止になったりとかというようなことで、800人台ですとか、そういうことが多かったんです。

そこで考えますと、現時点で観賞教室が1個ちょっと中止になってしまっていて、鑑賞教室の児童数がなしで900まで行っているということかというと、コロナ禍前の状況に戻ってきているかなという印象はございます。

【原田委員】 ありがとうございました。

【鉄矢会長】 ありがとうございました。

そのほかございますでしょうか。

では、鉄矢からですけれども、この富永親徳さんの面白そうですね。そのまだ見えていない価値というものを、本当にどういうふうに見える化して顕在化させるかというのが学芸員の腕だろうなと思ったときに、御親族が今、小金井市に住んでいらっしゃるんですね。

【中村学芸員】 御親族が、敷地に建物はあるんですけれども、ただ、現時点での住所は都内の別の場所に移されているらしいんです。

【鉄矢会長】 そうなんですね。

ここ最近、やはり解像度を上げるという表現がよく使われるんですけれども、やはりこの作品の解像度が上がるのに、この富永さんが、今、年齢を見ると、70年は生きてないんですよ。

【中村学芸員】 そうですね。

【鉄矢会長】 ねえ。

それで、この中で100点のうち100点以上多分描いているものはどういうふうに散っているのかとか、何かいろいろな解像度が上がるための情報がもしかしたら御家族が持っているのかとか、何かいろいろな解像度が上がるための情報がもしかしたら御家族が持っているのかと思って、エピソードとか。やはり今、中村研一、ここにきて、それこそ中村学芸員の話を知ると、へえ、そうなんだと言って絵を見る解像度が変わってくるということと同じように、やはりこれもぜひ、すぐにまとまらないと思うんだとすると、本当に口述で録音して、次の学芸員にも回せるような、家族からのエピソードって、解像度を上げるためにはすごく大事そうな気がするのだと思った次第です。

意見です。

【原田委員】 質問よろしいですか。

小金井に住んでいた方なんですね、この富永さんは。

【中村学芸員】 正確に言いますと、住所は三鷹だったんです。ただ、三鷹でもかなり小金井市寄りのところに住んでいらして、現時点で作品が置いてあるアトリエというふうに呼ばれている場所は小金井市にございます。

富永さんの御親族がその一帯に長く住んでいらして、やはりそこに建物を建てて、今、100点寄贈の受入れの見込みなんですけれども、アトリエのほうにはまだかなりの量の作品が残っているという状態です。

【原田委員】 中村研一とほぼ同世代ですけれども、交流はあったんですか、ないんですか。

【山村副会長】 絵葉書か何かは残っていて、ネットでも出ているんですけども、ちょっと印象派風の作風ですね。非常に興味深いですね。

【鉄矢会長】 ほかの東京美術学校出身の人たちって、その頃ってライバル感があるんですか。それとも、同じようにパリに行っていると、仲良しで寂しくて会うやつがいるのかもしれないですけども、都内で何となく同じように出していると、つつい会わずに、近いけれども、知っているからというのとか、何かそういう関係ってどっかで見えてくると思うんです。

【中村学芸員】 中村研一は割合その辺のことに対して、顔が広いというか、日記を見ると、同世代の画家たちとの付き合いということは、割と小まめに継続的に続いているんです。場合によっては、ちょっと悪口書いてみたりとかもしているというところはあるんですけども、この富永氏に関しては、富永親徳さんに関しては、現時点でそういった部分でのやり取りというものもなかなか見つからなくて、ただ、若い時期のものに関しては、写真、アルバムが見つかっているんですけども、アルバムを見ると、美術学校の仲間と展示をやったりですとか、あと、それから、それよりも前の台湾時代、台湾に長く住んでいたんですけども、台湾時代に台湾一中の仲間たちと何か展示をやっていたらしい形跡ですとか、その辺りは確認できるんですけども。

【原田委員】 面白いですね。

【中村学芸員】 なので、そういった形で、まだ定まっていない人をどうにか形にしていこうという展示になる予定です。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。

【山村副会長】 感想で。非常に解説も丁寧に書いてあって、今日、時間がなくてあまりしっかり読んでいないんですけども、ずっと見ていると、さっきも言いましたけれども、中村研一の生涯で、どこに住んでいて、どこに行って、茨城のほうに疎開して、またこっちへ戻ってきたりとか、そういうことが、最初は神宮外苑のほうに住んでいてというのがよく分かって、大変良かったです。

そういうのと、さっき言ったように、近代の日本の歴史を、戦争も挟んで重なって、丁寧に見ていると、非常にいい展示だなと思いました。

それと、作品については、今、ちょっと富永親徳の話が出たんで、改めて思ったんですが、印象派風のものもあるし、すごく黒を使って、アカデミックというんですか、何か前から黒の使い方にすごく関心があって、ちょうどたまたま今、東京都美術館でデ・キリコ

の展覧会をやっていて、1920年代にピカソも古典主義に戻るし、アンリ・マティスも古典主義に戻る、デ・キリコもそうなんですけれども、それまですごくアバンギャルドで、キュビズムとかそういうものを描いていた作家が、デ・キリコは超現実主義というか、形而上絵画とかと言うんですけれども、古典返りをするときに、そういう作風に、黒をよく使う作風に戻るんです。似たようなものがあるんですけれども。

中村研一のパリ時代の先生のアスランもそうなんですけれども、1910年代の後半から20年代にそういう割とそういう古典的な作風で描いている。それで、多分、中村研一はそのアスランの影響は強いでしょうね。それをずっと引きずっているんでしょうか、あれは。そう思うんですけれども。だから、ちょうど今、デ・キリコやっているから、その辺を感じました。

一方、またドイツでは、「ノイエ・ザッハリッヒカイト（新即物主義）」という運動があって、やはり印象派風がそれまでドイツでもはやっていたのが、急に古典主義的な、写真のような、輪郭がはっきりしたものに返るんです。

だから、その辺のところをもうちょっと深掘りしてくれると大変面白いかと思っていました。だから、それはよく、リターン・ツー・オーダー、秩序への回帰とかと言うんですよ。その20年代の頃から30年代。だから、その辺、中村研一ではあまり言われたことがないので、もうちょっとその辺、研究してくれるとうれしいかなというふうに思いますので、私の勉強不足だけかもしれませんが、また教えていただければと思いますので、よろしくお願いします。以上、感想です。展覧会は非常に楽しみにしています。

【鉄矢会長】 そのほか。

畑島委員、好きなようにしゃべっていいですよ。緊張しないで。みんな何か背負っておられるわけじゃなくて、ただ自分が感じたものとか、いろいろなものをしゃべって、よりよくするためにはどういうことができればということが。アイデアでも何でもいいです。と言いながら、私。

カタログフェアなんですけれども、多分自分が書いているカタログって売りにくいんだと思うんです。私は多分薩摩先生に、カタログは基本的に写真見るもんじゃなくて、中の文章を読むものだ。これは学芸員が気合込めて研究してやったものが書いてあるから、実は字のほう面白いはずだって。その字を読むために、ちょっと忘れちゃっているから絵を見るぐらいの感じのというように言われていた。

そうすると、それこそカタログを買うという、手に取るとかいうところは分かるんです

けれども、普通の人は写真集を買うに近いふうになっているので、何かカタログを手にする解像度を上げるみたいな何かを、河合先生とかが何かこう。河合先生とかも書いているか。自分のを書いている。

【河合学芸顧問】 いや、でも、実際には、本当は1部でも売れば執筆者はうれしいですよ。やはりこれまでデッドストックに近かった部分があって、もう売れないやと思っていたのを、でも、全部出しちゃえよという、それって今、いろいろな美術館もやっているんです。普通は10年もたつと半額セールとかやるんだけど、ここはやらなかったんです。だけれども、売れているんですよ。

というのは、やはり中村研一で来て、かつてほかの似た企画もあったりして、そうなんだと。また、中村研一はたった1点しか出ていないけれども、大きな枠でつくっていたという、ここで実際を見て興味を示してくれた人が買っていらっしゃるというので、うれしいですよ。

【山村副会長】 常時置くということはないんですか？いつも置く、フェアじゃなくて。

【河合学芸顧問】 いや、だから、常時っていっても、ちょうどあそこの場所しか基本的にはないんですよ。売るという、直接になると。だから、これからやろうと思えば、段取りとしては、そうやっていける部分っていうのはあると思うんですけども。ポストカードなんかもまた、増刷りして研一さんの、猫ブームですので、また作ったりしているという状況ですから。

【山村副会長】 受付で売ったんですか

【河合学芸顧問】 これは言っちゃいけないのかもしれないんですけども、1日何人のお客さんがいらっしゃるかで、もぎりをやりつつ、また、売るといものの結構大変さというのが出てきたりするんですね。普通ショップって分かれているのを、それが全部1か所でやると、たった絵はがき1枚買うために、チケットを売っている人もいて、最後にぐるっと回らなきゃいけないみたいな。

例えば八王子の夢美術館なんかでも、この間、延々並んでいるのを見ましたものね。1枚の絵はがきを買う。そんななんですよ。ちなみにここは現金なんですよ。

【事務局】 はい、現金だけ。

【中村学芸員】 レジスターが中村研一記念美術館から引き継いだレジスターで、取り換えるお金がなくて、ずっとそれを使っているの。

【鉄矢会長】 皆さん美術館どんなふうに入っているんですかね、今。ペイペイとか、

ねえ。

【山村副会長】 現金多いと思いますよ。

【鉄矢会長】 現金多いですか。

【河合学芸顧問】 だから、ある程度、今、コロナのときで入場制限とかやった段階で予約制とかになったら、そうかもしれないですけども、それ以外は現金ですよ。

【山村副会長】 小さいところというか、中以下のところは大体現金。

【河合学芸顧問】 現金しか受け付けないというのは結構今でも多いと思います。

【山村副会長】 練馬だって現金ですよ。

【河合学芸顧問】 だから、この三多摩だと、恐らく府中美術館が一番ショップから何から大きいですよ。茶わんまで売っていますから。

【山村副会長】 でも、カードはやっているか。

【河合学芸顧問】 うん。だから、やはりそんなにいろいろなことを1人でできなくなっちゃうというのが実際あるんですよ。そうすると、1日数十人じゃないですか。

【平田委員】 挟むと誰かが持っていくというのがある。企業さんがいっぱい、半分ぐらい持っていったらいいからね。

【河合学芸顧問】 そこら辺はまた難しいところがあるみたいですね。

【原田委員】 展覧会の感想はその他のところがいいですか。今でも。

【鉄矢会長】 今でも大丈夫です。

【原田委員】 とても面白かったですね、この展覧会ね。所蔵作品展って作品がもう限られているから、何回もやっているうちにやり口がなくなると、素人で思っていたんです。往還っていうから、何だ、そんなに道の絵があったかなんかの感じで、実はあまり期待しないで来たんです。ところが、すごいですね、日本と西洋、それから、日本とアジア、それから、戦争と平和、その行き来が見事に見えるんです。いや、すごいなと思いました。

それで、一番僕が感心したのは、中村研一の1930年の室内図。もう富子、富子、富子、富子。新婚のときの絵ですよ。すごい相合い傘で富子、研一って書いてある。

ところが、あれが1930年ということは、35歳で人生のちょうど半ばなんです。72歳で亡くなっていますから。そうすると、あれはすごいポイントの絵なんです、中村研一を見るためには。つまり、富子さんはその後は、先ほど山村先生から伺った、画家っていうのは浮気性なので、こういう人は珍しい。富子1人でずっと来たという。分かりま

せんけれどもね。

要するに、35歳で結婚して、その後の37年間はずっと富子さんが人生の伴走者で、絵も支えていたんじゃないか。何であの富子さんばかり描いているんだろうと思っていたんですが、あの室内図で謎が解けました。面白かったです。

【山村副会長】 誰かいますか そんな画家。いや、奥さんをずっとモデルに描きながら。

【河合学芸顧問】 モデルに？ ずっと。

麻生三郎もそれに近かったな。というのは、はっきり言って、モデルさんを雇えるなんていう金はなかったわけですよ。みんな貧乏で。ガールフレンドだったり、昔でも今でも。それで、その人が奥さんになったりというのが多くて、麻生さんも初期の代表作みんな奥さん。

【山村副会長】 でも、その後としてずっと。

【河合学芸顧問】 その後でも、基本的には今度、娘が小さいときとか、ファミリーで全部やっていた。だから、奥さんが直接じゃなくても、そのファミリーという中では、ある意味では完結です。

【山村副会長】 だから、それだと、愛妻家とはいえないですね。

【河合学芸顧問】 奥さんだけ？ それはねずっとというなら白日会の中山忠彦先生かな。

【山村副会長】 名目的には「愛妻家の画家」って言えるのではないかな。

【鉄矢会長】 じゃあ、神社をつくって。愛妻神社って。

【河合学芸顧問】 ここに来れば。いいですね。

【鉄矢会長】 私のほうから、あと鑑賞教室のほうなんですけれども、大変そうなんですけれども、東京学芸大学の美術科の学生なんかもお手伝いには伺えるような気はするんですよ。

小金井市と東京学芸大学は連携協定を結んでいるはずなので、うまいルールなり何なりをつくっていくとできるかと思うんです。特に何かしゃべるんじゃなくて、安全管理とかというところで、多分自分たちも美術で鑑賞教室やりたいとかいろいろ思っている美術科の学生なんかもいると思うのでと思いました。

【山村副会長】 すみません。私も1つだけ。

寄贈された福井一二さんの作品すごくいいですね。あれを見ると、決して黒を使わなく

て、色で明暗も表せるし、光を浴びて海の感じがすごく出ているのは、あんな印象派風のうまい絵が描けるのに、何であの黒にこだわったのかって、よくよく気になったんです。

【中村学芸員】 あ作品は本当に寄贈を受けたときから非常にいい作品で、展示をしたかったんですけども、縦にすると、絵の具が剥がれて落ちるので、ずっと2年ぐらいの床に平置き状態だったんです。去年1年間でちょっと修復をしていただいて、そういう剥がれそうだった絵具も全部修復で固定していただいて、やっと展示できるようになった作品です。

【鉄矢会長】 中学生に今の話を聞かせてあげたい。そういう修復師がいるとか、知らない職業をいっぱいここに関わっている人がいろいろいるので。そんなことも。

では、予算のほう。お願いします。

【事務局】 予算のほうと、あと、提言のところも含めて御報告させていただきます。

昨年度までの第9期の運営協議会委員会のほうで、4年間委員をやっていた講評といいますか、提言ということでまとめていただきました予算額の資料6です。

3月31日付でこちらの発表ということで、白井市長のほうに提出しております。提言のほうでも度々皆さんにいろいろ運営のために書いていただいております美術館の空調設備のことが、やっとなんですけれども、令和6年度の予算のほうについております。

予算の資料3改め4のほうです。横の表のほうを見ていただきますと、2行目の美術館の維持管理に要する経費というところが大きく予算のほうが増しているのは、そちらの美術館のエアコンの修繕の工事が入ることによる増額になります。

提言も何期にわたって出し続けていただいていた案件でして、前回の3月31日付で出した提言でも、こちら皆様に言っていただいて、本当にやっとなんていう感じでございます。

この空調の設備の修繕のことがあって、先ほどもありましたけれども、例年2本企画展をやって、所蔵展を1本やっているというところの、3回展覧会をやっているところが、今年2回になっておりますので、美術館の事業に要する経費という3番目のところが、何だかマイナスがちょっと多くついているように見えるんですけども、そちらは展覧会が1回分少なくなっているために、少し減額というふうな見え方になっております。

ただ、先ほど河上からもありましたけれども、展覧会を1本減らしたところのいろいろなワークショップを実施するというので、その分のお金はきちんとついております。

美術館の一番上の運営に要する経費というところが若干上がっているのが、こちらは市

全体の制度のほうで、会計年度任用職員さんのほうに、今まで期末手当だけだったのが勤勉手当も支給するというふうになりまして、そこがちょっとだけ変わっているの、少しプラスになっているというのと、あと、一番最後、美術の森緑地に要する経費というところが、また、こちら前年度よりも大幅に上がっているのが、高木剪定の予算が計上されております。後ろの緑地のほうが、なかなか高い木が今、多くなってしまうというところで、2年前にも一度予算がついて切らせていただいたんですけれども、また、今年予算をいただけたので、少し剪定が入る予定がございます。

あと、助成金の採択状況ということで、一番下に例年書かせていただいていたしまして、去年も3つほど取れていたんですけれども、今年、実は空調設備の修繕が入るということで、いろいろ展覧会の予定のほうが決まらなかったような関係もございまして、助成金の申請というのを、今年度の分については、実際していないということで、今回、ないということになっているので、例年はいろいろ挑戦はしているんですけれども、今年はそんな事情でないという結果になっております。

予算については、以上になります。

【鉄矢会長】 何か御質問はございますでしょうか。

【山村副会長】 空調がこんなときに工事というのは大変すばらしい。皆さんの努力の結果だと思います。

1つ、一応予算的には2,200万の増額で、2,000万ちょっとの予定価額があって、あと200万ぐらいはクロスの貼り替えとか、何かそういうことに使われるんでしょうか。

【事務局】 クロスの貼り替えはなかったかと思っています。

それぞれ維持管理ということで、人件費とかでいろいろな修繕にかかるお金とかがちょっとずつ値上がりしているというのもありまして、何かが今回ついたというよりは、それぞれの価格がちょっとずつ上がったことによって、少し増額になっているかと思っています。

【山村副会長】 今年じゃなくてもいいですけれども、ぜひ20周年にはきれいな壁で。よろしくお願いします。

【鉄矢会長】 そのほか何かございますか。

国立大学は人事院勧告で何とか人件費を上げなきゃいけないという岐路に立たされて、大変ピンチな予算状況が、上げなきゃいけないのがある。

小金井市は、そういうことは動いてない。このままだと今、物価が上がっているのに、何か人件費増額っていっても、これじゃあ。これは、もしかして、常勤は上がっているけれども、非常勤は上げないとかという話じゃないんだろうとは思いたいんですけども、小金井市の状況はどうなんですか。

【事務局】 常勤だけが上がっているということではなく、基本的に給料も東京都に準じているという形に小金井市はなっているので、またその動きを見て、それぞれ常勤も…。

【鉄矢会長】 補正がつく場合がある。

【事務局】 はい。会計年度も見直しが入ります。

【鉄矢会長】 分かりました。

そのほか御意見ありますでしょうか。

この制限入札の資料5はどういうふうに見ればよろしいでしょうか。入札まだできるよということですか。

【事務局】 大きく空調設備を修繕するというふうに今、御説明したんですけども、細かくはこういうところを修繕しますというのを皆様にお示しできたらと思って。入札をしてくれというわけではなくて。皆さんにこのお知らせします。

【鉄矢会長】 応じてくれじゃないですね。分かりました。

では、最後に、8番目、その他。事務局より説明ございますでしょうか。

【事務局】 先ほどさらっと説明させていただきましたけれども、裏に3月25日にやっとカフェが再開しまして、土日祝日のみで今、運営をしております。まだしばらくの間は土日祝のみということでしております。お話聞いている限りだと、大変盛況で、土日祝のお昼時なんかは並ぶこともあるようなお話も聞いていて、大変うれしく思っています。

実は混み過ぎていて、私はまだ1回も行けていません。なので、いつか行きたいなんて思っています。また、皆さんもぜひ来ていただけたらと思います。

【原田委員】 私、ランチ試しましたがけれども、おいしかったです。

【事務局】 あと、議事録なんですけれども、今日ちょっと間に合わなくて、また次回、配らせていただきます。

【鉄矢会長】 分かりました。

私、その他なんですけれども、文化施設に関しての障害者の利用の通達が文化庁か何かから出てきたのがうちの大学にも回ってきたので、多分美術館もそれに関わってくると思

うので、ぜひ注目して、多分、障害のある方がもっと入れるようにって、ここは2階は入れない。ああ、エレベーターがあるから大丈夫ですね。

【中村学芸員】 緑地がちょっと。石段が。

【鉄矢会長】 そこにスロープというのは。

【事務局】 それはそれでちょっと。

【鉄矢会長】 そう。難しいところですね。でも、茶室には寄ってみたいとか思う人はいるでしょうね。文化財ですもんね。

【事務局】 文化財は外観をいじることができないので、文化財になっちゃったので、もしそこにスロープつけたいとか、何かいじりたいとなると、また許可の申請とかが必要になってしまうので、なかなか。

【鉄矢会長】 あとは本当に小金井市がストレッチャーみたいな、何かちゃんと動かすものを持ってということもありますね。

ありがとうございます。

ほかに。

では、これで終わらせて、畑島委員に感想を聞きましょうか。一応会議が終わるまでだから、議事録に残らないほうがいいですよ。

では、一応ここで、何もないければ、ここではけの森美術館運営協議会のほうを終了したいと思います。

【山村副会長】 どうぞ、御意見あるんじゃないですか。

【畑島委員】 終わったところで感想という形でよければ。

何か発言しなければと思って来たんですけども、すごく緊張してしまって駄目でした。ちなみにお茶は頂いて、すごくおいしくて、メニューで中村さん由来のスープのメニューとかが載っていて、ああ、いいなと思って見せていただきました。

そうしますと、やはり障害の方の参加という御意見があったんですけども、体に障害がある高齢者だったりがここに来やすくなる、社会の窓口になるということがあれば、すごくいいと思いますし、あと精神的に問題を抱えた方が、ここをまず取っかかりとして、社会とつながるような入り口になっていただけたらというのはすごく思います。

そういうのはギャラリートークとか、そういったので、一般の方とはちょっと別にする時間をつくっていただけたりとかがあれば参加しやすいのかなと思っております。

それで、高齢者の方は中村さんと同じ世代とは言わないけれども、同じような時代を生

きてきた方が多くいらっしゃると思うので、小金井に住んでいる方もいらっしゃると思うので、そういった方が絵を見て、私もこういったのを見て、こういうことを思い出すとか、そういったふうに心を動かしてもらえればいいなと思っています。

ありがとうございます。

【鉄矢会長】 実際アートセラピーとかいろいろやっていらっしゃるところもありますからね。

【山村副会長】 ケアマネジャーなの？

【畑島委員】 ケアマネジャーです。

【山村副会長】 大事ですよ。今日も八王子に行って、川瀬巴水という展覧会、新版画のを見てきたんですけれども、もう高齢化ばかりです。懐かしい日本の景色という。

その前に写真美術館って恵比寿にある、そこに木村伊兵衛という写真家、それから、メモリーという展覧会、やはり古い写真がいっぱいあって、それもやはりお年寄りがたくさん見ていて、ああ、これは何とかとか、懐かしいとか。あれってやはりすごく効果があるなと思って、それでここに来たものですから、さっき言ったように、歴史的な背景とかも。

だから、この展覧会ももうちょっとそういう層にアピールするようにしてもよかったかなというふうに。そうすると、昔を懐かしく思い出して、すごく話もね。展示室はうるさかったけれども、活性化とか、感じしました。

【鉄矢会長】 しゃべって見られる美術館というのも別にいいと思うんですけれども。いろいろあっていいんですよ。

【鉄矢会長】 これで終わったので、もういいですか。

【畑島委員】 はい、大丈夫です。

【鉄矢会長】 傍聴の方、ありがとうございました。

では、これで終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

【事務局】 ありがとうございました。

— 了 —